

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

回収高度化事業に関するお知らせとお願い

本年度の環境省からの受託事業である希少金属およびレアアースの回収高度化事業について、会員の皆さんにお知らせとお願いです。

本年度の回収対象品目は、エンジンコンピュータ基板、エアバッグコンピュータ基板とハイブリッド車のモーターに使われているネオジム磁石です。いずれも現状では経済性が厳しい品目ですが、将来的に私たちが連携することで国内循環の可能性が大きくなる品目でもありますので、昨年以上の事業参加をお願いいたします。

[参考写真/昨年度の事業より]

◆ 基板類

1) エンジンコンピュータ基板



解体工程で取り外した部品
(一次分別) から、カバーを
外して基板を回収する

二次分別



2) エアバッグコンピュータ基板



二次分別



◆ ネオジム磁石



Nd磁石(ジェネレーター)8pcs



Nd磁石(モーター)16pcs

初めに実施体制ですが、コンピュータ基板につきましては昨年同様に各地域団体ごとに幹事会社を中心として集積をしていただきます。

全国で1万台以上の基板を集めることが目標です。また、ネオジム磁石につきましては発生量が少ないことから、県単位の地域にこだわらず、ブロック単位での集積を予定しています。目標は全国で400台以上です。

(次ページに続く)→

目次

巻頭言	 1
トピックス1	
回収高度化事業	 1 ~ 2
トピックス2	
ネオジム磁石	 2
会員活動報告	 3 ~ 4
特別寄稿コラム	 5
VOICE	
～ 皆様からのお声 ～	 6
鉄スクラップ最新情報	 7
行事予定	 8
お知らせ	 8
編集後記	 8

巻頭言

税理士の先生にこのような話を聞きました。

ノミをコップに入れてふたをします。ジャンプが得意なノミは、コップのふたにぶつかってしまいそれ以上跳ぶことは出来ません。この状態でしばらく放置してふたを取ると、本来軽々とコップを乗り越えることのできるノミがコップの高さ以上に飛ばなくなってしまうというのです。

すなわち「これ以上無理だ」と自己規制を引いてしまうとそれが己の限界になってしまい、それ以上の力が湧かなくなってしまうという例です。決して事業に限界があるわけではなく、限界は己の心構えにすべてがあるということなのでしょう。

(広報部会長 永田 則男)

次に回収方法ですが、コンピュータ基板については精錬会社サイドと納入条件を話し合ううえで、我々の段階で事前に品位*によって数種類に分別して収集します。分別の方法につきましては、10月28日現在すでに代表50サンプルの分析が完了し、間もなく皆さんにお知らせできる予定です。できるだけ現場でわかりやすい方法を検討しています。ネオジム磁石につきましては、ミッションケースからの分解、消磁という作業がともないますので、ミッションASSYで集めてまとめて分解、消磁作業をするなど、効率を高める方法を検討しています。

(* 品位 …… 有用鉱物・金属の含有率)

[参考写真／昨年度の事業より]

◆ ネオジム磁石の消磁の様子



事業経費として、コンピュータ基板については集荷のための運賃、ネオジム磁石については集荷のための運賃および分解、消磁のための作業費が支払われる予定です。もちろん昨年同様、生産物の対価はご参加くださった皆さんに還元されます。

環境省の連携高度化事業は、3年計画で本年度が最終年度ということもあり、私たちの業界の将来のために、継続していけるスキームを何とか確立したいと考えておりますので、会員の皆さんのより多くのご協力をよろしくお願いいたします。

(総務部会 部会長 酒井 康雄)

ネオジム磁石の分解・消磁レポート

回収高度化事業の決定を受け、去る9月25日(水)、河村代表理事の事業所である(株)河村自動車工業にて、ネオジム磁石の回収マニュアル作成のための分解作業を行いました。磁石まで分解する機会はありませんので、その様子を報告させていただきます。

分解したのは、初期型のプリウスのものでE/G、T/Mの総重量は約210kg、T/Mのみで約110kgでした。

作業はT/Mの外側のケースの分解からスタートしますが、ケースを分解するとすぐにローターが見えて、この段階ですでに強い磁力の影響が出ますので、時計、携帯などは近づけないよう、またペースメーカーを装着している方は作業しないよう注意してください。

磁石はローターに組み付けられていて、取り外す際に鉄板などに吸い付きますので、指を挟まれない注意が必要です。ローターが外れたら、続いてステータコイルを外していきます。トヨタ車は駆動用と発電用に2つのモーターを使っていますので、順に分解します。

次に消磁作業ですが、ネオジム磁石は350℃程度で磁力をなくします。今回はタクシーのLPGを使い、バーナーで熱しました。磁力の目印にボルトやナットをいくつか付けておき、15分ほど熱するとそれらが脱落し、消磁できたことが確認できました。その後すぐに水で急冷することで、ローターに組み込まれた磁石を回収することができました。

特別な技術は必要ありませんが、分解の手順のコツと強い磁力に対する注意が必要な作業だと感じました。

(総務部会 部会長 酒井 康雄)



(↑写真:駆動モーターのローターを分解したもの・ネオジム磁石など)

中部・北陸ブロック会議 開催

- ◆ 日 時：平成25年10月9日 13:00～
- ◆ 場 所：岐阜市ハートフルスクエアG 会議室
- ◆ 参加者：30名

今回の中部・北陸ブロック会議は、経産省の小野室長や自再協の三淵マネージャーなどにご参加いただいた他、自動車リサイクル士制度認定講習会のリハーサル研修会を同日開催とした為、多数の参加者となりました。時間的にかなり厳しい事は予想されていましたが、皆様にも何度も集まって頂く負担を減らしたいという願いと、当ブロックは発足当時からの優秀なインストラクターに継続して活躍して頂いているため、彼らなら短時間で十分対応してくれるはずという期待から同日開催といたしました。

進行は、開始1時間程の全体会議終了後にブロック会議とリハーサル研修会に分かれて行いました。ブロック会議では、小野室長からの実態調査の説明や法改正に向けた提案等の議論を活発に進める事ができました。別室では、三淵マネージャーのご指導の下、インストラクターのリハーサルが何度も行われており、彼らの目が開始当初の「何とかなさ」という目から「何とかしてみせる」という目が変わっていくのがうれしく感じました。

終了予定時間を1時間程オーバーしましたが、結果的には短時間で集中して議論する事ができ、その後の懇親会でインストラクター同士が和気あいあいと語り合っている姿を見ると、大成功であったと確信しています。

(岐阜県ELV協議会 会長 金森 弘元)

関東ブロック会議 開催



(↑写真：来賓挨拶を務めた自再協の須藤部長)

10月20日(日)、茨城県の組合の方々にご協力いただき、地元大洗ホテルにおいて、関東ブロック会議を開催いたしました。自再協の須藤部長と三淵マネージャーにお越しいただき、33名の参加となりました。

自動車リサイクル士制度や今後予定されている回収高度化事業の説明が行われました。その後の質疑では、河村代表、須藤部長、酒井総務部会長が回答し、予定時刻をオーバーして閉会しました。その後18時から懇親会が行われ、楽しく和やかな雰囲気の中で情報交換ができました。

次回当番県は埼玉で決定、2年後は千葉の予定です。今後も関東ブロックは各地を訪ねての会議を開催していきます。

(ブロック長会議長 金澤 寿幸)

大阪にて組合PR活動実施



(↑写真：大阪自動車リサイクル協同組合の方々)

10月10日(木)、大阪自動車リサイクル協同組合では、毎年恒例となっている10月の3R推進月間にあわせた活動として、組合PR活動を行いました。組合事業者10社、日刊市況通信から2名、日刊自動車新聞から1名が参加し、広告入りティッシュ2,000個を配布しました。

同組合の埜村理事長にお話を伺うと、難波では他の地域で4時間かかったティッシュ配りが1時間で終了したとのことでした。これは、「ティッシュ2、3個ちょうだい」と自ら寄ってきてくださったり、もう一度前を通過して手に取ってくださったりする方が多かったからだそうです。

このお話を嬉しそうに語ってくださった埜村理事長の笑顔からも、人情味あふれる温かな街の様子が非常によく伝わってきました。

安全作業指導員研修会 開催



(↑写真：活発に議論を行う安全作業指導員の方々)

10月6日(日)、ELV機構本部近くの5東洋海事ビルにて「平成25年度安全作業指導員研修会」に参加しました。

当日は、自再協より須藤部長をはじめとする計4名、本部より河村代表理事、奥野事務局長、三浦事務局長、安全作業指導員15名の出席がありました。

私たち安全作業指導員の役割は、新規エアバック類の車上作動処理契約をされる事業所を訪問し、自動車リサイクルをする過程で特に重要なフロン類・エアバック類の処理作業を安全に進めていただくための指導を行うことです。

参加者は皆、真剣なまなざしで、活発な意見交換が交わされました。一人ひとりの「業界を少しでも良くしていきたい」という熱い気持ちが伝わり、「安全作業の知識を広めていかなければ」と再認識させていただきました。

(安全作業指導員 平地 健)

会員活動報告

～ 自動車リサイクル士制度 関連報告～

認定講習会 開催報告

◆ 北海道ブロック ◆



(↑写真:北海道ブロック認定講習会受講者の方々)

10月4日(金)、北海道ブロックにおける自動車リサイクル士制度認定講習会が札幌市にて開催されました。

受講者103名、自治体を中心としたオブザーバー11名、その他講師など含め、総勢133名の参加があり、これまでの認定講習会の中では最大規模のものとなりました。

講師として環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室の山口室長補佐、自再協の藤グループリーダーをお招きし、また、来賓として経済産業省製造産業局自動車課の小林課長補佐にご参加いただきました。

受講者は皆、熱心に講義を受けている様子で、多数の参加者が一丸となった見事な講習会でした。

◆ 近畿ブロック ◆



(↑写真:閉会挨拶を務めた大阪自動車リサイクル協同組合の埜村理事長)

10月17日(木)、近畿ブロックにおける自動車リサイクル士制度認定講習会が大阪市にて開催されました。

受講者48名、自治体を中心としたオブザーバー24名、その他講師など含め、総勢93名の参加があり、行政の関心の高さがうかがえるものとなりました。

講師として経済産業省製造産業局自動車課の小林課長補佐をお招きし、また、来賓として近畿地方環境事務所の方や近畿経済産業局の方にご参加いただきました。

受講者は全員真剣に講義に聞き入っており、講師陣もその熱気に押される形で堂々たる講義を展開するという双方の意気込みが伝わる素晴らしい講習会でした。

リハーサル研修会 開催報告

◆ 近畿・中国四国ブロック ◆



(↑写真:成果発表を行っている鳥取県の大黒インストラクター)

10月2日(水)、近畿ブロックと中国四国ブロック合同の自動車リサイクル士制度認定講習会に向けたリハーサル研修会が岡山市にて開催されました。

各地域団体の代表者やインストラクターを含めて、近畿ブロックより4名、中国四国ブロックより12名が参加し、本部からは吉川副代表理事ら3名が参加しました。

グループ研修を経て成果発表をするという形で、発表後に本番に向けての改善点などの意見交換を行い、非常に有意義な実のある研修会となりました。

◆ 九州ブロック ◆



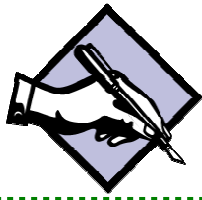
(↑写真:参加した九州ブロックのインストラクターの方々)

近畿ブロック認定講習会の翌日、10月18日(金)に、九州ブロックの自動車リサイクル士制度認定講習会に向けたリハーサル研修会が福岡市にて開催されました。

同ブロック内の地域団体の代表者やインストラクター12名、本部より伊丹副代表理事ら3名が参加しました。

各ブロックのリハーサル研修会に毎回ご参加くださっている自再協の方にも貴重なアドバイスをいただきながら、認定講習会におけるインストラクターの役割分担や当日の流れの確認などを行いました。

四街道の外国人中古部品ディーラー



北海学園大学 経済学部 教授 浅妻 裕 様より
「四街道の外国人中古部品ディーラー」というテーマで
ご寄稿いただきました。

千葉県の上街道市近辺では自動車解体業や中古部品の輸出を営む外国人ディーラーの大規模な集積が見られる。現在、千葉県全体で443の自動車解体業者が許可されているが、うち86件が上街道市に立地する。隣接する佐倉市には62件が立地することも併せて、県内でも最も集積が進んでいる地域である。また、業者の名簿を見ると明らかに外国人が所有していると思われる企業も多数把握できる。ただし、すべての外国人ディーラーが自動車解体を行うわけではない。「使用済自動車・解体自動車の保管場所」としての許可だけを受けているディーラーも多数立地する。また許可業者の名簿からの推測にも限度がある。このことから外国人ディーラー全体の立地件数を把握するのは困難である。

そこで筆者はこの8月に現地に赴いて立地状況の把握を試み、おぼろげながらその実態がわかってきた。現地に店舗を構えているディーラーのうち最も多いのはマレーシアのディーラーで、これが全体の約3割を占める。そしてアフガニスタン、タイ、と続く。台湾の業者も多い。タイやアフガニスタンについては、いずれも50 ～ 60件ほどのディーラーが立地しているという。これらをまとめて「四大勢力」と呼ぶディーラーもいる。さらに3.11以降はシャルジャから拠点を移してきたアフリカ系のディーラーが増えている。

このうち、台湾、タイのディーラーは中国の福建省がルーツで、閩南（びんなん）語という共通言語を持つ。またマレーシアのディーラーも華僑系である。上街道ではこの3か国・地域からの華僑系ディーラーが流通に大きな役割を果たしている。中古部品は自動車の年式や型式によって多岐にわたり、また自らが必要とする部品だけを生産することはできないため、中古部品を他のディーラーと融通する必要がある。この際、同じ華僑系のネットワークを活用して部品の取引が行われているのである。

実は、タイや台湾のディーラーは、もともと日本人の解体業者が1970年代以降、江戸川区などから移転してきたことに伴って進出してきたものである。現在でも日本人の解体業者の多くが彼らとの取引を継続していると思われる。一方で、世界的に日本発の中古部品市場が広がる中で、彼ら自身が部品を生産し始めたり、全国の解体業者から買い集めたり、さらには華僑系のマレーシア人も加わったりしたことで、彼らのネットワークによる部品流通はその規模・範囲ともに存在感を高めてきた。それを求めてさらに外国人ディーラーが集まるという構図もある。

上街道に見られるディーラーの集積現象は、明らかに華僑系ネットワークが機能することで実現している。一方でアフガニスタンやアフリカ系ディーラーについてはそれとは別の理由もあるように思われる。

今回、調査結果の一端を紹介したが、全体については機会を改めて発表することにしたい。

【全4回連載】第3回 「歴史は動きます。」

[代表理事 河村 二四夫]

- ◆ ELV機構が次世代に向けた新戦略は**政府・関係団体との共生**であります。ELV機構の社会的評価は会員の評価であり、与えられた役割と責任を社会に明確にすることが業界団体の生きる道筋と考えます。
- ◆ ELV機構では、8月の関東ブロックを皮切りに**自動車リサイクル士制度認定講習会**がスタートしました。以降、9月には東北ブロック、10月には北海道ブロック、近畿ブロックで開催されました。今後は、11月には沖縄ブロック、中国地区(中国・四国ブロック)、九州ブロック、12月には中部・北陸ブロック、四国地区(中国・四国ブロック)に開催予定です。そして、来年度(平成26年度)からは、自動車リサイクル管理士に加えて、**自動車リサイクル実務士の講習会がスタートする**予定です。
- ※ 今年度(平成25年度)に限り、認定講習会の受講対象を地域団体講習会修了証保持者及び修了証保持者のいる(過去にいた場合も含む)事業所の者としていますが、**来年度以降はどなたでも受講することが可能**となり、地域団体講習会修了証の有無にかかわらず受講できます。
- ◆ ELV機構は、次世代自動車の普及拡大に備えた自動車リサイクル技術の研究調査に取り組み、再生資源材の国内確保に向けた取り組みとして関係団体である自工会との検討会を始めます。又、自工会のリコール要請案件にも随時協力していきます。今後とも、自動車リサイクル法制度で関係業界団体が一体となり、**世界に誇れる自動車リサイクル制度 JAPANモデル高度化**に向けて邁進します。

【全4回連載】第3回 「万が一に備えて私たち解体業者が加入すべき保険」

[株式会社 大八商会 代表取締役 小宮山 敬仁]

今月は『フォークリフトと自賠責保険』についてです。

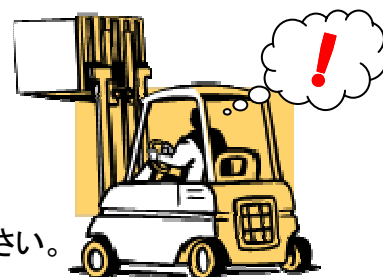
自賠責保険の保険料は12か月契約の場合で8070円、24か月契約で11440円です。つまり、24か月契約の場合、年間の保険料は5720円です。フォークリフトを長期間利用する場合は24ヶ月での契約がお勧めです。保障内容是对人で死亡最高3000万円、傷害120万円、後遺障害4000万円です。対物の保証はありません。

また、自賠責の場合、任意保険と異なり、保険会社が示談交渉をしてくれません。保険会社からのサポート(※)を受けながら、怪我をさせた相手の治療費、給与損害、慰謝料の示談交渉を自分で行なうことになります。※サポートの度合いは保険会社によって温度差があります。

保証の対象はフォークリフト本体との接触や、積んでいた荷物が落ちて怪我をした場合です。運転手本人は適用外ですので労災で対応します。自社の社員以外が運転し、相手に怪我をさせて場合でも適用されます。また、以下のケースでも対人保証されます。

- ナンバー無のフォークリフトで、一般道路(敷地外)を走行
- フォークリフトの定期点検を怠っていた
- 運転手が資格を持っていなかった

つまり、余程の故意(相手を怪我させる意図)でなければ保険は降りるとお考えください。



鉄スクラップ最新情報

■ 10月第4週(25日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供／日刊市況通信社]

韓国電炉メーカー、H2をFOB34,500～35,000円提示 日本側オファー上昇で大型成約には至らず

鉄スクラップ輸出価格が強含みの展開になっている。貿易筋によると、複数の韓国電炉メーカー(ミル)は10月第3週末までに日本産H2に対して1ト FOB34,500～35,000円どこを提示、一部成約したもようだ。25日には、現代製鉄が同34,500円を提示。韓国向け輸出価格は直近底値から2,000円がた上昇している。

一方、先週末のH2関東浜値(FAS)は34,000円どこに上昇。日本側のオファー価格もH2・FOB35,000円以上となっている。韓国側の提示価格はいずれも日本国内相場に対して割安水準にあることから、大型成約には至っていない。

韓国ミルは国内購入価格の値下げを続けており、現地ヤードの入荷は減少している。一方、欧米相場の上昇により米国やロシア玉の新規成約は低迷。国内入荷と欧米玉成約量の減少を受けて、現地ミルは不足しているスクラップの手当てを急いでいる状態だ。

このため、韓国ミルは短期の手当てが容易な日本玉に対する引き合いを強化。個別交渉を続けており、日本側の値上げ要求に一部応じる構えも見せている。

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



【関東地区】電炉筋、ウラ値対応含め値上げ一巡、浜値も上昇

10月28日の国内スクラップ炉前実勢価格			
		H2	気配
関東	北関東	34,000 ～ 36,500	値上がり
	南関東	34,000 ～ 36,500	値上がり
	名古屋	33,500 ～ 35,000	強含み
関西	大阪	34,500 ～ 36,000	値上がり
	姫路	34,000 ～ 34,500	強含み

関東地区では、10月第3週の終わりまでに電炉筋の値上げ改定がほぼ一巡し、相場は一段高となった。一部電炉は建値を据え置いているものの、ウラ値対応なども散見された。また、湾岸商社・シッパー筋の集荷価格の値上げが進み、H2浜値は34,000円中心に上伸した。電炉の購入価格値上げに加え輸出価格が上伸したことで、集荷価格を引き上げる動きが広がった。H2炉前実勢価格は34,000～35,000円中心、高値35,500～36,500円見当。

【東海地区】消費堅調で需給緩まず強含み推移

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、10月下旬入り早々までに500円がた反発したあとも電炉筋間の追加上げが広がる格好で、目先の気配は強気となっている。今週は月末環境を控えて荷動きは若干上向くものと見られているが、「全般的な発生の伸び悩みや業者ヤードの在庫薄もあり、電炉筋の入荷上向きは限定的で、基調は強い」との見方が出ている。名古屋地区のH2炉前実勢価格は33,500～34,500円中心、高値35,000円見当。

【関西地区】東京製鉄下げ改定受け、姫路以西で下落局面入り

大阪地区の鉄スクラップ市況は強含みの様相となっている。市中在庫が薄いことに加え、10月第3週後半からの関西鉄源連合会による共同輸出船積みの影響で電炉の入荷に伸び悩みが見られた。10月第4週に入っても電炉筋の入荷および在庫不安は解消し難いものと思われ、月末環境ながらも市況は強基調を維持するものとなりそう。H2炉前実勢価格は34,500～36,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は34,000～34,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月28日午後時点のもの)

行事予定

■11月の主な予定

11月8日(金)

- ・沖縄ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会
- ・自動車メーカー工場見学会

11月13日(水)

- ・第8回 広報部会

11月16日(土)

- ・東北ブロック合同交流会(山形県)

11月20日(水)

- ・中国地区 自動車リサイクル士制度認定講習会

11月21日(木)

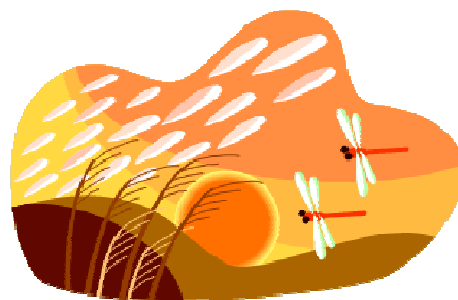
- ・第6回 常任役員会

11月22日(金)

- ・第6回 リサイクル技術部会

11月29日(金)

- ・九州ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会



お知らせ

■会員数(2013年10月現在)

会員=671社/賛助会員=26社

■新規ご入会者のご紹介(2013年10月ご入会)

会員

宮城県岩沼市
「株式会社 イマイ自動車」様
岐阜県羽島市
「セントパーツ 株式会社」様
山口県岩国市
「株式会社 サンコー」様
沖縄県浦添市
「株式会社 拓琉金属」様
沖縄県沖縄市
「株式会社 拓琉リサイクル研究センター」様

賛助会員

埼玉県草加市
「日立建機日本 株式会社 広域営業統括部」様



■自動車リサイクル士制度認定講習会の今後の予定

開催地 (ブロック・地区)	講習会 開催日	申込書類 必着日
中国地区(広島市)	11月20日(水)	11月6日(水)
九州ブロック(福岡市)	11月29日(金)	11月15日(金)
中部北陸ブロック(岐阜市)	12月2日(月)	11月18日(月)
四国地区(高松市)	12月11日(水)	11月27日(水)

編集後記

自動車リサイクル士制度認定講習会もたけなわで、全国から多くの受講者が集い、業界の機運も高まりつつあります。▲さて、ウラジオストクにて「NATURE WITHOUT BORDERS」というロシア発の環境フォーラムに出席する機会に恵まれました。この環境フォーラムではロシア国内外におけるあらゆる環境問題を取り上げ討論します。産廃処理問題、土壌汚染、潜水艦処理などなど、いまロシアでは多くの環境問題を抱えています。フォーラムではその対策に苦慮している様子を垣間見ることができました。▲現在、極東ロシアでは90%以上輸入された日本車が走行しています。ところが使用済みとなった車両の処理システムはまだ確立されていません。そこでウラジオストク日本センターの所長に「ロシアで発生した解体車を日本で処理することはできないのか？」と投げかけたところ、可能性は十二分あるとの示唆を頂きました。ただしロシアと日本の国交が絡んでくる故に一企業での取り組みでは不可能、しかし組織力をもって事に当たれば新たな展開も期待できるとのこと。この壮大な事業に浪漫を感じませんか？

(広報部会長 永田 則男)